

執筆者紹介

Bonaventura Ruperti (ボナヴェントゥーラ・ルベルティ)

ヴェネツィア大学教授・本年度国文学研究資料館外国人研究員

イタリアヴェネツィア大学外国語外国文学卒。ナポリ東洋大学・ヴェネツィア大学共同東洋学大学院博士課程終了。同大学研究員・助教授を経て、現職。専門は日本近世文学と演劇。論文に“Citazioni dal *nô* nel *jôruri* di Chikamatsu Monzaemon” (*Atti del XX Convegno di Studi sul Giappone*, Venezia, 1997年)、“Citazioni dal *nô* in *Satsuma no kami Tadanori* di Chikamatsu Monzaemon” (*Asiatica Venetiana*, III, Venezia, 1998年)、“Citazioni dal *nô* nei *jidaijôruri* di Chikamatsu Monzaemon” (*Atti del XXI Convegno di Studi sul Giappone*, Venezia, 1998年)、“Citazioni dal *nô* nell’opera di Saikaku” (*Atti del XXII Convegno di Studi sul Giappone*, Venezia, 1999年)、“Rivisitazione dei classici e invenzione nell’opera di Bashô” (*Atti del XXIII Convegno di Studi sul Giappone*, Venezia, 2001年)、“La citazione dal *nô* nello *haikai*, Da Matsunaga Teitoku a Nishiyama Sôin” (*Atti del XXV Convegno di Studi sul Giappone*, Venezia, 2002年) などがある。

金 時 徳 (Kim Shiderk キム・シドク)

高麗大学非常勤講師

韓国・高麗大学文学部日語日文学科卒。同大学院博士課程修了。専門は日本近世文学、比較文学。論文に、「『太閤記』の壬辰倭乱記事に関する考察」(韓国日本学会『日本学報』第56輯 2巻、2003.9)、「後期読本における壬辰倭乱の叙述様相に関して—尚州・忠州の戦いに関する記事の分析を中心として—」(韓日軍事文化学会『韓日軍事文化研究』第2輯 2004.4)「『絵本太閤記』の壬辰倭乱記事の研究—壬辰倭乱記事の構造の分析を中心として—」(韓国日本学会『日本学報』第61輯 2巻、2004.11) がある。

吉田 麻子 (よしだ・あさこ)

相模女子大学非常勤講師

早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了後、現在同大学院博士後期課程に在学。専門は日本近世文学。論文に、「気吹舎日記」・「平田篤胤略年譜」(『別冊太陽 平田篤胤』2004.4)、「気吹舎の著述出版—新出『気吹舎日記』を中心に—」(『近世文藝』75, 2002.1)、「気吹舎における出版と費用」(『東洋文化』90, 2003.4)、「平田篤胤の常陸・下総訪問—文化十三年『かぐしま日記』と文政二年『二度の鹿嶋立』を中心に—」(『近世文芸 研究と評論』56, 1999.6) などがある。

岡部 明日香 (おかべ あすか)

中央学院大学非常勤講師

早稲田大学教育学部国語国文学科卒。同大学院文学研究科博士後期課程を単位取得退学。専門は中古文学、特に源氏物語・和漢比較文学。論文に、「光源氏と周公旦」(『和漢比較文学』18, 1997.2)、「『光源氏』手習巻の新楽府引用と浮舟物語」(『中古文学』71, 2003.5)、「『紫式部日記』左京の君事件の記述態度—彰子後宮の漢詩文受容の問題からの考察—」(『国文学研究』142, 2004.3) などがある。

林 淑 丹 (Lin Shudan リン・シュクタン)

文藻外国語学院大学助教授

台湾・輔仁大学日本語学科卒。新潟大学大学院修士課程、東京大学大学院総合文化研究科大学院研究生を経て、お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程修了、博士号取得後、現在に至る。専門は、日本近代文学、比較文学。論文に、「森鷗外『雁』と『虞初新志』の「大鉄椎伝」」(東京大学比較文学・文化研究会『比較文学・文化論集』17, 2000.1)、「森鷗外『雁』と『金瓶梅』—物語の交錯」(森鷗外記念会『鷗外』69, 2001.7)、「森鷗外『魚玄機』論—「才子佳人小説」を視点として」(お茶の水女子大学大学院人間文化研究科『人間文化研究年報』25, 2002.3)「鷗外文学における「奇」」(お茶の水女子大学大学院人間文化研究科『人間文化論叢』5, 2003.3) などがある。

Zdenka Švarcová (ズデンカ・シュヴァルツォヴァー)

カレル大学教授

カレル大学大学院において博士号取得。専門は日本語(現代語・古語)、日本文学(古典・現代文学)。著書は *Vesmír v nás: inspirace a útěcha v japonském jazyce a literatuře* (我々の中にある宇宙：日本語と日本文学に慰めを求めること)、Praha: Academia, 1999. 154 s., *Japonská literatura 712-1848* (日本文学712-1868)。論文に *Semiotic Aspects of the Refined Expression in Classical Japanese: Language and Literature* in Copeland, Rebecca and Oyler, Elizabeth and Marcus, Marvin, eds. *Acts of Writing* (Proceedings of the Asociacion for Japanese Literary Studies), Vol.2 (Summer 2001), AJLS, pp.3-18, *Literature Favorable for Life and comfort (An Example of Two Japanese Poetical Texts)*, Praha, Karolinum, Acta Universitatis Carolinae-Philologica 1, Orientalia Pragensia XIV, pp.61-76, *Meanings Condensed in Japanese Short Poems*, Pandanus '03, *Natural Symbols in Literature*, Edited by J. Vacek. Charles University, Faculty of

Arts; Signeta, Praha 2003, ss.99-116, などがある。

楊 琇 媚 (Yang Hsiu-mei ヨウ・シュウビ)

広島大学大学院博士課程

台湾・淡江大学日本語学科卒。広島大学大学院社会科学研究所博士課程前期終了、同学研究科博士課程後期進学、現在に至る。専門は、武者小路実篤を中心とする日本近代文学。論文に、「芸術への執着と妹の献身—武者小路実篤『その妹』におけるジェンダー意識—」(『近代文学試論』2002.12)、「武者小路実篤『お目出たき人』論—主人公における「自己確立」の様相—」(『日本研究』2004.2)、「武者小路実篤『友情』論—作中人物におけるジェンダー言説に着目して—」(『国文学攷』2004.12) などがある。

李 漢 正 (Lee Hanjung イ・ハンジョン)

東京大学大学院博士課程

韓国・全北大学校日語日文学科卒。漢陽大学校大学院(日本文学専攻)終了後、東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻比較文学比較文化コース博士課程に入学し、現在に至る。専門は、日本近代文学で、特に表現における越境と混淆について。論文に、(共著)「日本文学の韓国語翻訳現況に関する調査(1945~1997)」(『漢陽日本学』(ソウル)、1998.2) などがある。

Eduard Klopfenstein (エドゥアルド・クロッペンシュタイン)

チューリヒ大学教授

スイス・ベルン大学にて博士号、チューリヒ大学にて教授資格を取得し、現在に至る。主著に、*Tausend Kirschäume-Yoshitsune: ein klassisches Stück des japanischen Theaters der Edo-Zeit; Studie, Übersetzung, Kommentar*. Bern u. Frankfurt/M: Verlag Peter Lang, 1982 (Schweizer Asiatische Studien: Monographien, Bd.2); *Tanikawa Shuntaro Picknick auf der Erdkugel. Gedichte. Ausgewählt, übersetzt und mit einem Nachwort versehen*. Frankfurt/M: Insel Verlag, 1990; *Mondscheintropfen. Japanische Erzählungen 1940-1990* (Auswahl, Nachwort, z.T. Übersetzung). Zürich: Theseus-Verlag, 1993. *Ooka Makoto. Botschaft an die Wasser meiner Heimat. Gedichte 1951-1996*. Auswahl, Übersetzung, Gespräch mit dem Autor. Japan-Edition. Berlin: edition q, 1997. などがある。

Daniel Struve (ダニエル・ストリューブ)

パリ第七大学助教授

フランス・高等師範学校の文科・パリ第四大学（ソルボンヌ）西洋古典文学部卒。東京外国語大学、慶応義塾大学のフランス語・フランス文学の外国人専任講師、フランスで高等学校専任講師を勤める。その後、パリ第七大学東洋言語学部に入學し、博士論文を書き終え、現在に至る。専門は、井原西鶴と江戸初期の文学だが、最近天明時代の狂歌研究の論文もある。論文に、*Ihara Saikaku, un romancier japonais du XVIIe siècle* 『十七世紀日本の小説家西鶴』、coll. Orientales, Presses Universitaires de France (Paris, 2001), «Les Recueils comiques de kyōka 「アンソロジーとしての狂歌集—徳和歌後万載集を中心に」: l'exemple du *Tokuwaka go manzai shū*», *Extrême-Orient-Extrême-Occident*, Presses Universitaires de Vincennes, (Paris, 2003) 所収、«Les Heures oisives et le XVIIe siècle» 「十七世紀における『徒然草』」、*Eloge des sources, reflets du Japon ancien et moderne*, Picquier (Arles, 2004) 所収、などがある。

Margaret H. Childs (マーガレット・チャイルズ)

カンザス大学準教授

アメリカ・ゲティスバーグ大学卒。コロンビア大学修士課程修了後、京都大学で研修員を経、ペンシルバニア大学で博士号を取得。南イリノイ大学助教授、カンザス大学助教授を経て、現職。専門は、平安時代から室町時代までの物語文学。論文に、“The Value of Vulnerability: Sexual Coercion and the Nature of Love in Japanese Court Literature”, *The Journal of Asian Studies* 58, no.4 (November 1999), *Rethinking sorrow: Revelatory Tales of Late Medieval Japan*. Center for Japanese Studies, University of Michigan, 1991, “Pre-Modern Japanese Autobiography as Therapeutic Writing”, *The Desire for Monogatari: Proceedings of the Second Midwest Research/Pedagogy Seminar on Japanese Literature*, Eiji Sekine, ed., Japan-U.S.Friends Commission and Purdue University, 1994, “Didacticism in Medieval Short Stories: *Hatsuse monogatari* and *Akimichi*”, *Monumenta Nipponica* 42.3 (Autumn 1987), pp.253-288., “*Chigo monogatari*: Love Stories or Buddhist Sermons?” *Monumenta Nipponica* 35.2 (Summer 1980) などがある。